

施工取扱説明書

お客様へ

保存用

工事店様へ

【安全上のご注意】

注意


接触禁止

禁止

 水ぬれ禁止

☐

!
厳守

照明器具の寿命は、使用条件、使用環境で異なりますが、一般的な使用状態で8～10年が目安です。数年に1回は、専門家(工事店・電器店)による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切な処置を施してください。→放置すると、火災・感電・故障の原因になります。

■定格

型 番	定格電圧	入力電流	消費電力	使用ランプ
AD45393L	AC100V	0.35A	34.2W	LED

取説No. C721-023 KL/S・T-02

■施工前の確認

1 器具重量に耐えられるよう、取付部の強度を確保する

やわらかい天井に取付ける場合は取付金具と天井の間に補強材を入れる。

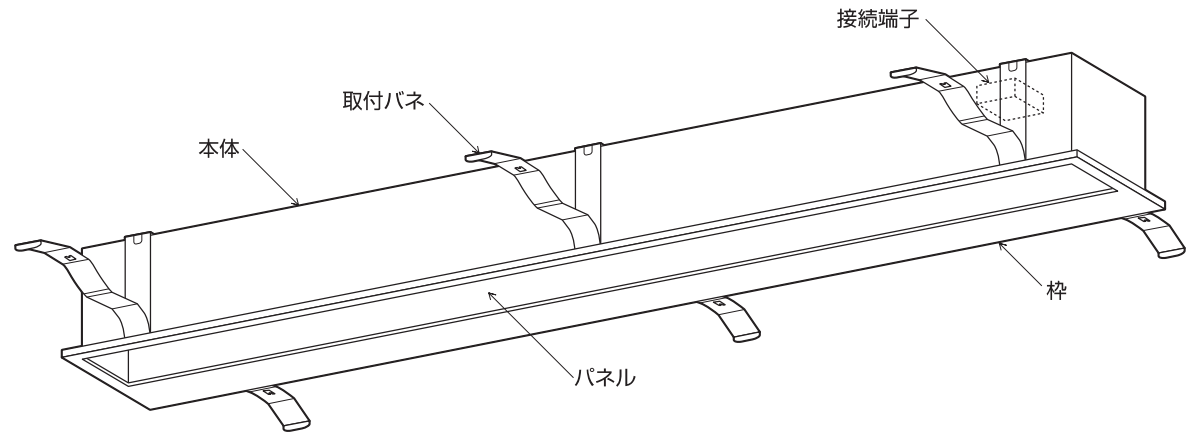
⚠ 警告 石膏ボード単体での取付けはできません。石膏ボードに取付ける場合は補強材を入れてください。
器具の落下によるけがの原因になります。

2 天井に埋込穴をあける

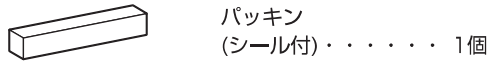
埋込穴寸法	天井材厚(補強材含む)
105 $\pm$ 2 ₀ mm×1200 $\pm$ 2mm	8～25mm

■施工手順 ⚠ 注意 取付けの際は必ず電源を切ってください。感電の原因になります。

※この図は一部抽象化した共通部品図です。
※部品の有無・損傷を確認し、不備の際は取付けないでください。



〈付属部品〉



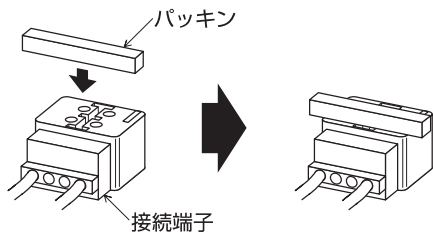
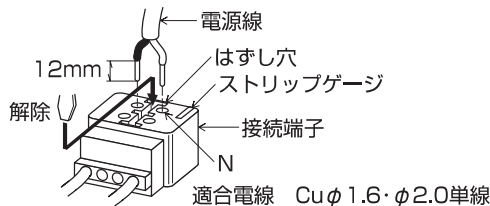
1 電源線を接続する

ストリップゲージに合わせて電源線の被覆をむき、接続端子に確実に差し込む。このとき、電源線は器具から離して施工する。また、送り配線は照明器具専用とする。(送り総容量10A)
はずす時ははずし穴にマイナスドライバーを差し込み、電源線を抜く。

⚠ 警告 電源の接続を確実にこなってください。
接続が不完全な場合や電源線が器具に接触した場合、容量オーバーした場合は火災・感電の原因になります。

〈配り配線しない場合〉

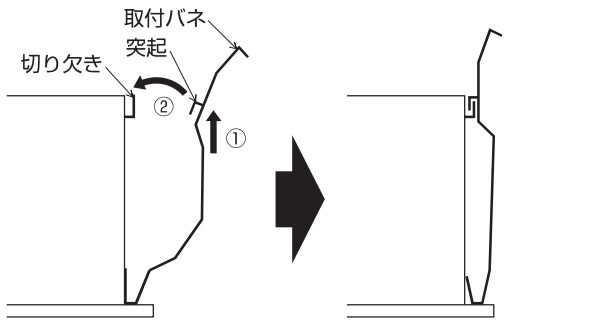
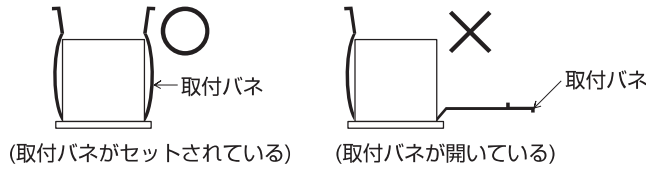
使用しない接続端子の差込口を、付属のパッキンを貼り付けてふさいでください。



2 取付バネをセットする

器具を取付ける前に取付バネを右図のようにセットする。

- ①取付バネを押し上げる。
- ②突起を切り欠きに引っ掛ける。

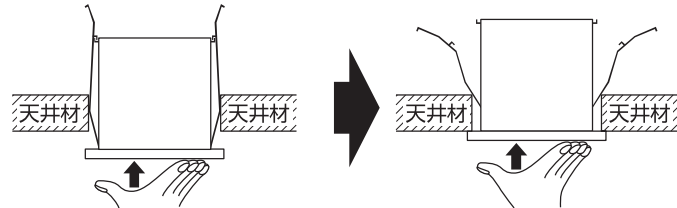


3 器具を取付ける

器具を天井穴に入れ、水平に押し上げる。

※取付バネが自動的に開き、器具は固定されます。

⚠ 警告 器具が確実に取付いたことを確認してください。取付けが不完全な場合、落下によるけがの原因になります。



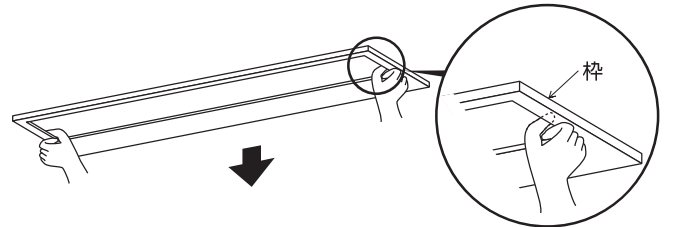
4 点灯の確認を行なう

■器具の取外し方 ⚠ 注意 器具の取外しの際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

1 電源を切る

2 器具を取外す

器具の両端の枠内に指を引っ掛けて引き下ろす。



！ 器具の取外しは工事店・電器店に依頼してください。→感電の原因になります。

■使用上のご注意

- 器具の近くでリモコン(コントローラ)を操作した場合、誤動作することがあります。器具とコントローラ受信部を離してご使用ください。
- 器具の近くや電波状況の弱い場所では音響製品に雑音が入る場合があります。器具と音響製品を離してご使用ください。
- 点灯および消灯後に器具構成材料の熱伸縮により若干のきしみ音が発生することがありますが、異常ではありません。
- 電源OFF時に表示が点灯するタイプのスイッチを使用する場合、壁スイッチの使用は4個までとしてください。壁スイッチを5個以上使用される場合は、表示が点灯するタイプ以外のスイッチを使用してください。
- ライトコントローラなどの調光器と組み合わせて使用する際は、必ず当社指定のライトコントローラ・調光器(別売)をご使用ください。チラツキ・誤作動の原因になります。

■LEDユニットについて

- LED光源寿命(光束維持時間)は、40,000時間です。光束が70%以下になるか、不点灯になるまでの時間で、照明器具の保証寿命とは異なります。
- LEDのみの交換はできません。
- LEDは輝度が高いため、直視しないでください。
- LEDにはバラツキがあるため、同一型番でも発光色、明るさが異なる場合があります。ご了承ください。
- 電源ON時にスイッチが点灯する表示付スイッチに使うと、表示が暗くなったり点灯しないことがあります。

■器具のお手入れ ⚠ 注意 器具のお手入れの際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

- 明るく安全に使用していただくために6ヶ月に1回程度の清掃・点検をしてください。
- 器具の汚れは乾いた柔らかい布が薄めた中性洗剤を浸透させた柔らかい布をよく絞ってから拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの揮発性のもので拭いたり、殺虫剤をかけたりしないでください。また、薄めた中性洗剤を使用した場合は、洗剤が残らないよう、よく拭き取ってください。変質・故障の原因になります。